

再評価結果（平成18年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：鈴木克宗

事業名 一般国道108号 古川東バイパス		事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 東北地方整備局										
起終点 自：宮城県古川市鶴ヶ塚字新江南 至：宮城県古川市稲葉字土手内		延長 5.1 km											
事業概要 古川東バイパスは、古川市街地の交通混雑の解消等を目的とした5.1 kmの4車線道路である。													
H2年度事業化		S54年度都市計画決定											
全体事業費		340億円											
計画交通量		14,400台/日											
費用対効果分析結果 B/C (事業全体) 2.2		総費用 (事業全体) 265億円 (事業費：247億円 維持管理費：18億円)											
		総便益 (事業全体) 594億円 (走行時間短縮便益：546億円 走行費用減少便益：33億円 交通事故減少便益：15億円)											
		基準年 平成17年											
感度分析の結果 事業全体について感度分析を実施 (事業全体) 交通量変動：B/C=2.5(交通量+10%) B/C=2.0(交通量-10%) 事業費変動：B/C=2.1(事業費+10%) B/C=2.5(事業費-10%) 事業期間変動：B/C=1.7(事業期間+20%) B/C=2.8(事業期間-20%)													
事業の効果等 ・円滑なモビリティの確保（現道における混雑時旅行速度が20km/h未満である区間の改善が期待される） ・安全で安心できるくらしの確保（三次医療施設へのアクセス向上が見込まれる） 他13項目に該当													
関係する地方公共団体等の意見 古川東バイパスは、古川市街地の交通混雑の解消、三次救急施設への速達性向上、中心市街地活性化事業支援等に重要な役割を果たすことが期待されており、古川市をはじめとする関係首長で構成される石巻・新庄地域高規格道路建設促進期成同盟会より、早期整備の要望を受けている。													
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 この事業の目的が失われるような道路交通状況の変化及び関連プロジェクト等の変更はない。													
事業の進捗状況、残事業の内容等 【執行済み額】事業費：20億円（進捗率 6%） うち用地費：20億円（進捗率 10%）													
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 事業進捗に係わる問題はなく、平成20年代の全線暫定2車線供用を目標に事業推進を図る。													
施設の構造や工法の変更等 2車線施工に際し、初期投資を抑えるべく、橋梁下部工および函渠等構造物の暫定施工を図る。													
対応方針 事業継続													
対応方針決定の理由 以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。													
事業概要図													
<table border="1"> <tr> <th>凡</th> <th>例</th> </tr> <tr> <td>■</td> <td>供用中</td> </tr> <tr> <td>■</td> <td>事業中</td> </tr> <tr> <td>■</td> <td>再評価箇所</td> </tr> <tr> <td>■</td> <td>うち供用中</td> </tr> </table>		凡	例	■	供用中	■	事業中	■	再評価箇所	■	うち供用中		
凡	例												
■	供用中												
■	事業中												
■	再評価箇所												
■	うち供用中												

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。